

センター月だより

〒 507 0034 多治見市豊岡町 55 ヤマカまなびパーク4F TEL 0572- 23 - 3455 FAX 0572- 26 - 8813

指導日誌より

= 多治見地区 =

ピアゴのゲームコーナーで幼児がひとりでパンを食べていた。保護者は買い物中でいなかった。親の意識が低いと感じた。(3/14 精華 2)

公民館で学習中の女子中学生ひとりに声をかけました。(3/14 小泉 5)

中学、高校の卒業式も終わり、外で出会う学生は少ないが、まなびパークで勉強している学生が多く感じられました。(3/14 南姫 9)

北風の強い寒い日でしたが、大勢の子どもが外で遊んでいた。高校を卒業した子達から進路の話を聞いた。皆元気でした。(3/15 池田 6)

3年生が卒業しているので中学生の人数は少ないが、声かけすると返事が返ってきました。(3/15 市之倉 7)

根本交流センターを利用する児童、生徒や帰宅する保護者、児童に声かけ、あいさつをしました。パロー、Vドラッグなどでも数名の児童にあいさつ。(3/15 根本 10)

日差しが春らしくなってきたが、まだまだ風は冷たく外に出ている子どもたちは少なかった。交番で聞

いても特に問題となることはないとのことでした。(3/16 脇之島 12)

早帰りもあり、児童生徒には会わなかった。多治見高校も甲子園出場の翌日で休みでした。来年度のスタートは自転車の乗り方について見届ける予定です。(3/21 養正 1)

= 瑞浪地区 =

駅前で帰宅途中の高校生たちに声をかけた。雨で、高校卒業式ということもあり、夜は人が少なかった。(3/1 瑞浪 A)

ピアゴのゲームコーナーで男子小学生 2名がゲームをしていたので声をかけると、親は買い物中とのことだった。(3/9 明世 H)

小・中・高生の姿はありませんでしたが、今日は「あの日」からちょうど 6年。きっと子ども達も、それぞれの思いを胸に、祈りを捧げたことでしょう。(3/11 稲津 F)

少し暖かくなり、日も長くなってきた。部活動などの帰りなのか駅へ向かう高校生の姿を多く見かけるようになった。どの生徒もあいさつや会釈をして通り過ぎていった。(3/17 日吉 I)

◆◆◆ 3月 声かけ活動の結果 ◆◆◆

	多治見地区	瑞浪地区	土岐地区	合計
指導人数	0	0	0	0
声かけ人数	327	52	256	635
指導員参加者	65	29	33	127

まだまだ寒く、夜出歩く学生もいません。あいさつもバスから降りてきた帰宅する学生にできたぐらいでした。(3/23 陶 E)

年度末の朝、あいさつ活動を行いました。登校する生徒の近くを通行する自動車が急いでおり、もっと気をつけて欲しいと思いました。(3/24 釜戸 G)

= 土岐地区 =

・以前、三洋堂書店で盗難の被害が多く、私服警備員を導入したとの情報がありました。しばらく経ってお店も改装されましたが、店長さんにそれ以降の様子を確認すると、「最近は大丈夫です」とのことでした。(3/1 泉 9)

・卒業式や入試のシーズンとあって、駅での学生の姿は少なかった。風の冷たいことも手伝って足早に帰っていく姿が見られた。(3/7 泉 8)

下校中の高校生は、声をかけると気持ちの良い返事してくれた。駅周辺のゴミは皆無なほどで、駅西の駐車場もどなたかが清掃されているようです。(3/8 特 A)

卒業して中学 3年生がいないため、自転車通学の子は少なかったが、朝から元気のいいあいさつが聞こえてきた。(3/14 鶴里 4)

寒さも和らぎ、登校する児童・生徒も元気のいいあいさつが返ってきて良かった。(3/14 曾木 5)

本日は三連休の初日で、お彼岸ということもあり家族で出かけているのか、出会った子どもたちは少なかった。(3/18 下石 2)

少し日が長くなりました。コンビニで女子中学生が買い物をしていました。声をかけると「こんにちは」とあいさつを返してくれました。(3/21 駄知 6)

・日は長くなりましたが、駅前には高校も春休みなのか、若者の姿はありませんでした。(3/22 肥田 7)

「家庭の教育力」が低下した？

3月1日の毎日新聞は、最近また耳にする「伝統的家族」の衰退という声に関して、その「伝統的家族」はホンモノか？と報じていました。

「**家族の機能が衰弱傾向にある。家族の機能、特に教育機能をよく両親に考えていただきたい**」

・・・1964年の参院予算委員会での官僚答弁

「**家庭の教育力の低下が言われている。どのように道徳やモラルを学ばせれば良いかという問題がある**」

・・・2014年衆院青少年問題特別委での自民党上野通子氏の答弁

これらの官僚や議員の答弁をみると、この50年間「家庭の教育力」は低下する一方、との認識が、折に触れて示されてきました。

それに対して、日本教育学会会長で日大教授の広田照幸さんは「**何を根拠に言っているのか。教育や家庭を巡る議論はうそだけです**」とあきれています。そして「**そもそも『日本の家庭は伝統的に子供への教育がしっかりしていた』という言説自体がうそです。昔の日本の子育ては『放任』が一般的でした**」と解説します。「**戦前、富裕層以外の庶民は、教育に力を入れるゆとりはなかった**」

文科省統計数理研究所が実施する「日本人の国民性調査」では、58年には「一番大切なもの」に「**家族**」を挙げる人は12%だったが、2013年は44%に。内閣府の調査でも、父親との会話の頻度を聞くと「**話すほう**」と答えたのは70年の45.6%から00年には64.9%に増えた。

広田さんは、「**今ほど『家族の絆』が強い時代はないんです。むしろ強過ぎる絆が時に家族関係を窮屈にするほど。**」とも話しています。

< センターから > 28年度も 声かけ活動 ありがとうございました

寒い日が続いて開花が遅れていた桜もやっと満開になりました。入学式・始業式も終わり、子どもたちは新しい生活・新しい学年に踏み出しました。明るく元気に前向きに新しい環境に向かい、自分の道を見つけてくれればと願います。

さて、指導員さんの任期は4月までです。今年度も声かけ活動に取り組んでいただき、ありがとうございました。29年度も継続して頂ける方には引き続きよろしく願いいたします。

今回で退任される指導員の皆さんには、長年にわたるご尽力に感謝申し上げます。これからも地域の子どもたち・若者たちの成長を温かく見守っていただくよう、よろしくお願い申し上げます。